

ひゅーまんねつとわーく 萩の杜

地域に生きる

2005年4月 発行 / 第21号

社会福祉法人北摂杉の子会 萩の杜 社会福祉法人北摂杉の子会後援会 萩の杜家族会 ジョブサイトひむろ家族会
〒569-1054 大阪府高槻市大字萩谷14番地1 TEL 072-699-0099 FAX 072-699-0130 haginomori@nifty.com



上段左：山田行雄さん、上段右：切石さつきさん
下段左：川合雅也さん、下段右：中川裕嗣さん

知的障害者通所授産施設「ジョブサイトひむろ」開設

—地域生活支援の拠点を目指して—



ジョブサイトひむろ

施設長 佐々木 寛 昭

この度、平成17年4月1日に開設した知的障害者通所授産施設「ジョブサイトひむろ」の施設長に就任することになりました。就任にあたり一言「ジョブサイトひむろ」の開設経過と就任のご挨拶を申し上げます。

当法人は地域支援の一環として、在宅の人たちの受入の場として、また入所更生施設である「萩の杜」利用者の日中活動支援の場として、萩の杜分場「工房ひむろ南」、「工房ひむろ北」を運営して参りました。今年度、大阪府立高槻養護学校卒業生、高槻市立つきのき学園卒園生の4名の方から萩の杜分場での利用希望の申し出がありました。当法人としては、この新たなニーズに応えると共に、より一層の支援サービスの向上を目指して、両分場を統合し、「工房ひむろ南」の建物の改修工事を行い、知的障害者通所授産施設「ジョブサイトひむろ」（定員40名）を開設いたしました。

この改修工事により、新しく厨房を増設いたしました。また大阪府自閉症・発達障害支援センターが使用していました事務所および療育スペースを作業スペースとして活用することとなり、作業スペースが拡大し、新しく作業グループを増やすことができました。また利用者の送迎バスを1台から2台に増やすことにより、送迎時間の短縮が可能となりました。

「ジョブサイトひむろ」開設を機に、職員一同、これまで以上に利用者のニーズに寄り添った支援を提供していく所存でございます。利用者とその家族の皆様、

行政・関係機関、地域住民の皆様におかれましては、より一層のご支援を賜りたく、衷心よりお願い申し上げます。

さて、国の障害者福祉の流れに目を転じますと、ここ数年で障害者福祉の制度は急激な変化を遂げようとしています。措置制度から利用契約制度となり、さらに障害者自立支援法に移行していこうとしています。通所施設の機能と役割もその変化に伴い、影響を受けていくこととなりますが、大切なことは昔も今も変わっていません。それは利用者にとって、毎日通う場所があり、共に時間を共有する仲間と働き活動し、自分の可能性を肯定し、他者を認めることのプロセスであると考えます。そのことは日中の活動にとどまらず、生活や余暇の場の充足も視野に入れたものとなります。そのために我々支援者は、利用者のことをよく知り、家族の思いを受け止め、実現可能な支援計画を立案することが求められます。

「地域で当たり前暮らしていける生活を」と、いたるところで叫ばれています。それはまだまだ十分にできていないことの現れです。私たちは、皆様との連携と協働により、「ジョブサイトひむろ」が高槻の地で、樹木が地中に徐々に根を伸ばすように地域生活支援の拠点となり、利用者の実りある生活が実現するように微力ながら支えていく所存でございます。

重ねまして、皆様方のご理解とご支援、ご協力をお願い申し上げます、ご挨拶といたします。



厨 房



ジョブサイトひむろ

アクトおおさかの事務所移転と 自閉症療育センター will (ウィル) 開設について



アクトおおさかセンター長 **新 澤 伸 子** (写真左)

自閉症療育センターwillセンター長 **谷 岡 とし子** (写真右)



大阪府自閉症・発達障害支援センター「アクトおおさか」は、開設以来2年余り拠点としていた「工房ひむろ南」2階からこのたび高槻市役所のすぐ近くの野見町に事務所を移転いたしました。JR高槻駅、阪急高槻市駅からも徒歩5～10分で、171号線に面しており、利用される方にも以前より便利になったと好評です。

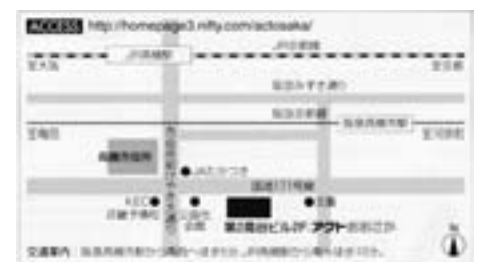
府立松心園の療育待機の緩和を図るという目的のために大阪府が事業化した「自閉症児療育・訓練強化事業」について、平成15年度・16年度に当法人が事業委託を受け、「アクトおおさか」に併設する形で50名定員の療育を実施してきました。

この度、平成17年度からは、大阪府の「自閉症・発達障害支援事業」の一環としての療育等支援事業(注1)の委託を受け、



「自閉症療育センター will (ウィル)」として、「アクトおおさか」新事務所と同じビル内で、新たにスタートすることになりました。また、今年3月に高槻市より「児童デイサービス事業所」として指定を受け、療育に関しては支援費制度を利用していただけるようにもなりました。

大阪府全域を視野に入れて施設や学校の巡回相談や療育者養成研修等の間接支援を主軸にした「アクトおおさか」と、幼児・学齢期の自閉症のお子さんと家族を対象にした療育等の直接支援を行う「自閉症療育センターwill」、お互いの機能を補完しながら、よりよいサービスの提供に努めてまいりたいと思います。今後ともよろしくご支援のほどお願いいたします。



(注1) 17年度は下記の3施設で、定員各50名で実施される予定です。

施設名	問い合わせ先	募集開始	募集締切	申し込み資格	申し込み・選考方法
(社福) 北摂杉の子会 自閉症療育センター will(ウィル)	高槻市野見町3-14 第2高谷ビル2F TEL 072-662-0100	4/1	4/15	自閉症・発達障害の診断を受けた就学前児童及び小学生	申し込み資格を有し、期間内に所定の申し込み用紙にて郵送で申し込まれた方を対象。応募多数の場合は施設関係者以外(大阪府職員)の立会いのもとに、抽選で決定
(社福) 大阪府障害者福祉事業団 自閉症児支援センター Sun(サン)	富田林市大字甘南備216 TEL 0721-34-3663	4/12	4/22	自閉症・発達障害の診断を受けた就学前児童	
(社福) 三ヶ山学園 自閉症児支援センター Wave(ウェーブ)	貝塚市三ヶ山1696 TEL 0724-21-3000	5/2	5/13	自閉症・発達障害の診断を受けた就学前児童	

新たな地域生活支援の取り組みの報告



萩の杜
副施設長 河坂昌利

(1) グループホーム「みやた」を開設しました

・この4月にグループホーム「みやた」を、高槻市宮田町にあるマンション形式の賃貸物件を借り、開設しました。入居者は、「ジョブサイトひむろ」通所者2名、他の作業所通所者2名の合計4名です。スタッフは、世話人5名と夜間管理者3名の体制です。

当法人がすでに運営していますグループホーム「とんだ」の料理の評判は、グループホームを支える職員の間ではなかなかのものなのですが、開設した直後のグループホーム「みやた」の朝・夕の食事を食べてみて、野菜をふんだんに使った純和風の料理は、一味の辛さがピリッと利いていて野菜嫌いの私が思わず、心の中でうまいと唸ってしまうおいしさでした。入居者の平均年齢が40歳代のグループホーム「みやた」にとっては、このようなメニューをおいしく食べさせる新しい世話人の料理の腕前は、入居者の健康を維持し、ひいてはこれからの入居者の地域での自立生活を下支えしてくれるものと確信しました。



今後は、それぞれの入居者の将来に対する夢や希望を踏まえながら、将来の生活を少しでもより豊かに、そして、より確たるものにするため、現場スタッフとバックアップ施設が力を合わせて、グループホームを支援していきたいと思えます。

(2) 自活訓練事業の開始と復帰専用居室整備を完了しました

・この4月より、グループホーム「みやた」と同じ建物の2階の1室を借りて、萩の杜の自活訓練事業を開始いたしました。参加者は、目下2人です。この事業は、知的障害者施設に入所されている方の地域移行を推進する為に設けられた制度で、地域での自立生活に必要な基本的な生活上の知識や技術を一定期間に集中して個別に学んでいただくことを目的としています。

また、大阪府の地域移行促進事業を利用して、今後地域へ移行した施設利用者が、何らかの理由で止むを得ず施設へ戻らざるを得なくなった時に利用できる復帰専用居室を、「萩の杜」の生活棟に2室を2ヶ月余りの工事期間を経て設置したこともお知らせいたします。

復帰専用居室の設置を契機に、希望される方については、積極的に地域移行を進めていきたいと考えています。



自活訓練風景

復帰専用居室

大阪市における自閉症児者への包括的支援拠点を目指して

～「ジョブサイトよど」および

「児童デイサービスセンターan」 着工～



社会福祉法人北摂杉の子会

常務理事 松 上 利 男

知的障害者通所授産施設「ジョブサイトよど」および「児童デイサービスセンターan」の地鎮祭が2月8日に執り行われ、来年度4月開設に向けて工事を開始しました。

皆様方にはすでにご案内のように今回の事業は、私ども法人における事業展開の方向性の一つである「広域・特化」、即ち大阪府下における自閉症児・者に特化した支援を目指すものです。

私どもは自閉症の障害特性を踏まえて、利用者それぞれの個別的ニーズとライフステージにおけるニーズに基づく幼児・学齢期、青年・成人期にわたる一貫した包括的支援の必要性を自閉症者への支援を通して実感してきました。

今回の施設整備により青年・成人期の人たちの日中活動・就労・地域生活支援ニーズに対しては、「ジョブサイトよど」を支援拠点としてサービス提供を行うこととなります。

また今後の課題として、知的障害を伴わない高機能自閉症・アスペルガー症候群の人たちに対する就労支援、特に職域開拓の一つとしてのビジネスモデルの開発にも取り組んでいくことができればと思っています。

幼児・学齢期の人たちの療育・発達検査・評価・相談・研修については「児童デイサービスセンターan」を中心としてサービス提供を行うこととなります。

このように今回の施設整備により私どもが課題としてきた自閉症児・者に対する一生涯にわたる一貫した包括的な支援サービスの提供が可能となります。そして私どもはこの二つの支援機能を通して、自閉症児・者に対する支援モデル、連携モデルの創造と発信を行っていきたいと思っています。

また今年度、大阪市は「発達障害支援セン

ター」開設の計画があり、今後「発達障害支援センター」との連携を模索しながら大阪市における自閉症児・者支援ネットワークの構築ができることを期待しています。

以上、「ジョブサイトよど」、「児童デイサービスセンターan」整備に係わるソフト面について述べてきましたが、ハード面について少しお話ししたいと思います。

障害を持つ人たちにとって環境は非常に大切な問題です。建設・設計にあたっては自閉症の人たちのバリアフリーに配慮しました。そのような考えから今回の設計・管理業者として、特に自閉症・発達障害のある人のためのバリアフリー建築に実績のあるニ井清治建築研究所様にお願いをしました。国の施設整備補助金カットという厳しい状況の中、当初設計計画の大幅な見直しを強いられましたが、ニ井清治建築研究所様と建築を請け負ってくださった茜建設株式会社様のご理解とご尽力により素晴らしい建物の完成を楽しみにしています。

最後にこの私どもの事業実現の為に貴重な土地をお貸し下さいました河端良一様には心から感謝申し上げます。またご尽力下さいました大阪市、地元自治会様はじめご支援頂きました皆様方に対して、厚くお礼申し上げますとともに、今後ともご尽力賜りますようお願い申し上げます。



「ジョブサイトよど」完成予定図

スウェーデンにおける脱施設化後の 地域生活支援の仕組みと内容 II



桃山学院大学社会学部

まつのはな かつ ふみ
助教授 松 端 克 文

聞き手

社会福祉法人北摂杉の子会

まつ がみ とし お
常務理事 松 上 利 男

松上 前は、ノルショーピン市における研究活動、特にグループホームの居住面積や設備、利用者支援の実際、補助金、年金と利用者負担などについてお聞きしました。引き続きお話しをお伺いします。まずはじめに当事者活動はどのような状況ですか。

松端 当事者活動についてはFUBという有名な全国組織があって、ノルショーピン市にもその支部があります。元々は知的障害を持つ子の親の会の活動から始まって、本人も活動に入り今では支援に関わる人たちも入っています。知的障害を持つ本人、親、そして支援者の集まりといった団体で活動はかなり活発です。例えば、施設がどれほどひどい生活空間であったかということ、利用者本人にインタビューした内容を本にまとめたりしています。日本で出版されているものもあります。施設というのは、管理的で、集団生活的で、プライバシーがなく、窮屈で、非人間的な生活空間であったというような内容です。施設入所の際に、親も望んでいなかったし、本人も望んでいなかったのに無理やり施設に入れられたというようなことを涙ながらに語っているという内容のものが多いです。ですから、FUBの活動ではそのような事実を正確に記録して、それを社会に発信して反省を促しています。スウェーデンでの脱施設化のある種の原動力になったのはこうした当事者活動でした。ノルショーピン市での施設の生活を写真でつづった本があるのですが、ノルショーピン市では今では施設がなくなっています。施設がなくなっているけれども、元々施設で生活していた人のインタビューとか施設での生活の写真と

かを本人の了承を得て本にしています。これはやはり、「施設のなもの」は生活の場がグループホームに変わったといっても残る可能性があるということに対して警鐘を鳴らしているということですね。集団的であったりとか、本人の希望に対する配慮を欠いたりとかというようなことだと思います。スウェーデンの社会というのは、本人活動やFUBの活動を中心に、当事者の立場からそれが正しいのかどうかを問題発信するという意識が強いと思います。

松上 職員の資格や現任訓練はどうなっていますか。
松端 職員は原則として准看護師の資格を持っています。それに加えて、PSW(精神科ソーシャルワーカー)的な資格を持った職員や心理学関係の資格を持った職員がいます。つまり、ケアスタッフと呼ばれている人たちは、准看護師の資格をベースにしてその他に特殊な資格を持っています。また、デイセンターや福祉工場みたいなところでは、その道の職人さんがスタッフになっている場合があります。

研修については、例えば自閉的な傾向を持つ人が通っているデイセンターでは、職員にかなりストレスがたまるようですので、職員がカウンセリングを受けられるようなところがあるようです。一方、高齢者が多いゆったりとしたところでしたらそのようなものはありません。つまり、研修については画一的に決まりがあるのではなくて、グループホームやデイセンターの特質に応じて研修を実施しているようです。

松上 スーパーヴァイズのシステムはあるのですか。
松端 グループホームやデイセンターのいくつかのユニット毎にチーフがいて、他の職員のワンラン

ク上に位置づけられています。一方、スウェーデンは世界一といってよいほど職階がない国で、例えばデイセンターに10人職員がいたら10人とも同じ立場であるのがほとんどです。チーフというのはその上にいますから、グループホームを6つ担当しているとしたら数十人の部下を持っていることになります。そのチーフが全体を総合的に調整するような形になります。職員に何か困りごとがあればそのチーフが相談にのります。利用者から寄せられる職員に対する苦情についてもそのチーフが聴くことになります。

松上 そのチーフはコミュニンが雇用しているのですか。

松端 そうです。コミュニンの職員です。チーフだけではなく一般の職員もコミュニンの職員です。つまり公務員です。

松上 チーフには特別な資格は必要ですか。

松端 大学のカリキュラムでソーシャルワークを学んだ人がチーフをしているようです。スウェーデンには日本のような専門職制度がありませんので、大学でどのようなことを学んだかということが重視されます。現場で働く職員は看護系の職員ですので、チーフと呼ばれるマネージャー的な職員はソーシャルワークを学んだ人が主に就くようです。スウェーデンはやりなおしのきく社会で、大学を卒業した後で看護師の資格を取ってスタッフになったけれども、やはりマネージャーみたいなことをしたいと思ったら、大学に行きなおして必要な知識や技術を習得してもう一度就職しなおしたりすることができる社会です。そういう意味ではずっと一つの職種・職場にとどまっているというよりは、人生のうちに何度かやりなおしがきく社会ですし、そのために政策的にサポートするシステムがある社会です。

松上 その人の必要に応じて社会人になってからでも仕事を辞めて大学に行きなおして、ということが保障されている社会なのですね。

松端 そうです。それとコミュニンの職員はそうでもないのですが、福祉現場のケアスタッフの地位はあまり高くはありません。また、人件費もそんなに高くはありません。

松上 日中活動を支援している例えば福祉工場など

で、職人さんがスタッフとして入っているとのことでしたが入れ替わりはあるのでしょうか。職人さんも別の職業に就くということが頻繁にあるのでしょうか。

松端 それはかなり流動的だと思います。

松上 先日、川崎医療福祉大学の学長である岡田喜篤先生のお話を伺う機会があったのですが、スウェーデンでは脱施設化の中で入所施設は確かになくなってきたけれども、そのかわりに連棟型のグループホームができていたり、15人ぐらいの大きな単位のものでできている、とのことですがその辺はどうなのでしょう。

松端 グループホームは一応5人が単位になってはいますが、実際は6人や8人や10数名というものもあります。そういう意味では1グループホームあたりの居住者の人数は多いと思います。アパート1棟の中でグループホームとして使用しているのが15室もあつたりということはありませんから、ある意味で施設的になっていると言えるでしょう。

松上 同じく岡田喜篤先生が、「海外には、障害者、例えば知的障害を持った人たちの文化があつて、それでグループホームのような一緒に暮らすコミュニティを自分たちで作りたいというニーズがあつて、それを保障するために一定程度の小さなグループホームを連棟型で建てて、従来型の施設ではない支援をしている」というようなことをおっしゃっていましたが、その辺はどうなのでしょう。

松端 ノルショーピン市ではそのようなことはなかったようです。グループホーム毎にアドレスがありますよね。その1つのアドレスに15人程度の利用者がいるというケースはあります。その場合でも、それがいいとか悪いとかを言うのは難しく、知的障害者は一般の市民との交流が少ないといったときに、前提として一般の市民との交流がある方がいいということになるのですが、大体同質の人が固まるという傾向があるのですね。私がインタビューした女性の利用者についていうと、毎週FUBの活動をしていて、その会場で知り合って仲良くなった知的障害のある彼氏がいるのですが、一般の市民との関わりが重要であるというけれども、逆に、なぜ知的障害のある人たちがお互いに関わりあうのが悪

いのかといいますと、それを答えるのは難しいですね。いい悪いは別にして、例えば中国系の人たちは自分たちでコミュニティを作りますし、知的障害を持った人たちが自分たちのコミュニティを創ってそこで関わりを持つということは一概には否定できないと思います。もし悪いとすれば、管理的になったりとか、開放された環境ではなくてグループの中だけでクローズドで「施設の」になってしまうという点だと思います。そういう意味では、グードマンが入りコンタクトパーソンが入り自分たちの親しい人たちがスタッフに入ったりして環境を作るということでいけば、一概に悪いと言えなくもないかなという気がします。

松上 本人のニーズがまずベースになりますよね。さて最後になるのですが、今般日本でグランドデザイン案が示されましたが、私の見方としましては、社会福祉基礎構造改革で示された理念からは変化してきたというか、障害を持った人たちが自分のニーズに応じていろんなサービスを選択できて、地域の中で暮らしていく方向を支援するというようには読み取れないように思います。障害の程度によってその人の人生が決まってしまうというような印象を受けます。一つには、国の姿が見えないというか、われわれは自分たちの国の将来をこんな姿にしていくというような、例えば高負担でも高福祉がいいとか、いやそうじゃないとかの国のイメージをもって、その上で障害を持った人たちの暮らしも含めて政策を作り上げていくというのがなくて、財源論がまずあってそれにつじつまを合わせるように理念に理屈をくっつけてやっているようにしか見えません。その辺について先生がどのように考えられて、さらにスウェーデンを見てこられて、日本の中で特に私たちが障害を持っている人たちを支援する専門職としてどうなのかということをお話しいただけますか。

松端 スウェーデンに行って、直接のインタビューをするとともに比較福祉国家論のようなことも調べてきました。日本でも世界的にも有名なエスピン・アンデルセンというデンマークの学者で現在イタリアの大学にいます。その学者が「脱商品化」という指標と「階層化」という指標を使って、福祉国家の3つのモデルを提示

しました。一つ目は、スウェーデンやデンマークのような北欧型の社会民主主義モデルです。二つ目は、アメリカ、イギリス、オーストラリアやカナダのような自由主義モデル。三つ目は、ドイツ、フランス、オーストリアなどヨーロッパの大陸諸国のような保守主義モデルです。3つのレジームつまり政治体制で分けています。

今までの福祉の歴史でも、中世の封建社会から近代の資本主義社会に変わるにしたがって貧困を中心とした新たな社会問題が発生してきて、それを国家が責任を持って積極的に対応してきたというストーリーで語られます。そういう意味では、できあがる国家の像というのは割合単一のイメージでした。ところが、スウェーデンと日本とは違いますし、スウェーデンとアメリカやイギリスを比べてみてもぜんぜん違うわけです。そういうのを分析するために「脱商品化」と「階層化」という指標を用いました。「脱商品化」というのは、人間は労働力商品として自分を売って賃金を得るわけですが、働かなくてもどれだけ生活ができるか、つまり正当な理由がある場合に働かなくてもどれだけいいかということです。「階層化」というのは、社会保障制度が国民の階層をどれだけ固定する機能を持っているかという指標です。スウェーデンは、「脱商品化」指標がかなり高い、例えば育児休暇なんかは子供が2歳になるまで父親でも母親でも有給で取得することができますので、仕事なり子育てに専念できます。また病気の問題については長期病欠者の問題が一番深刻のようです。有給で療養できるわけで無期限に休めてしまえるようです。そういう意味では働かなくても暮らせませす。「階層化」という面でも多分世界でもっとも社会階層の差が少なくて貧富の差もないのです。子供が大学に行くときには国の奨学金制度があつて、親の所得に関係なしに子供は子供として独立して自らの人生を歩めませす。そのためには国は経済的な保障をしてくれます。当然奨学金は働くようになってから返済していくわけですが。そういう意味では、親の地位が子供に反映しないという意味で階層化がフラットというか自由に開けています(脱商品化=高、階層化=低)。

一方、アメリカなんかは働かないと食べていけない国で、能力次第で儲かったり儲からなかったりします。そういう意味では「脱商品化」指標は低いわけです。逆に「階層化」指標は高いです。貧富の差が激しいですから（脱商品化＝低、階層化＝高）。ドイツやフランスなどの大陸国は、働かなくても社会保険制度が充実していますのでそこそこ食べていけますけれども、階層化が結構強く職域ごとに制度が作られています。豊かだった人は老後の年金も豊かになりますからそういう意味では「階層化」指標は高いです（脱商品化＝中、階層化＝高）。日本はその3つの指標で言うと少なくとも社会民主主義モデルではありません。どちらかというと、ドイツやフランスなどヨーロッパの大陸国の保守主義モデルに近くて、家族制度を中心にした制度です。ヨーロッパのように家族制度や職域制度を中心にした制度ですが、今後の方向としてはアメリカ型の市場原理中心の方向に向いているといえます。そういう意味では、社会福祉基礎構造改革の契約とか自己決定とか効率とか選択というのは、アメリカ的というかアングロサクソンのような経済価値観なのです。そういうことを踏まえて日本の状況を見てみると、今回のグランドデザインなんかでもきれいな言葉で包み込むように語っているのですが、結局は支援費制度で必要に応じてサービスを提供すると言ってしまったがためにお金が全然もたないわけです。だから中身は何かというと「いかにお金を抑えるか」ということです。ですから、本当はスウェーデンのように「必要に応じて」のはずが介護保険制度と同じように上限設定をして、それがうまく機能するようにケアマネジメント制度を入れるという話です。そこでやるケアマネジメントというのは、介護保険の悪しき面の給付管理的な意味合いをかなり持つようになるわけです。ですから日本の福祉はいい方向に向かっているとはいえないと思います。福祉だけに限らず今の三位一体改革の議論も含めて、日本は今後ますます高齢化社会になって放っておいてもお金がかかってきますから、いかにお金を抑えるかという話ばかりをしています。いかに抑えるかということは一人当たりの取り分が減ってしまうということなのです。

で、そういう意味では本来の福祉というのはますます厳しくなるだろうと思います。また、ノーマライゼーションの理念にしてもスウェーデンでは真剣に社会としてその実現を目指しているといえます。それに比べて日本はノーマライゼーションと言いつつも実は全然ノーマライゼーションの方向には向いていません。今私たちがすべきこと、国の動向をそれなりに分析しながら、日本の社会は政策的には少なくともノーマライゼーションを実現しようとはしていないし、福祉にはお金をかけないし、いかにお金を削るかということの議論がなされている、こういう流れを断つことだと思います。そして私たちにできることは、政策の問題点を指摘し改めることだけではなく、実践的な観点からノーマライゼーションの議論を大切にすることだと思います。そういう意味で、施設の職員は本当にノーマライゼーションの理念が大切であると考えてるのであれば、今目の前にいる利用者が本当に地域で当たり前の暮らしをするためにはどのようなことができるのだろうかということから、自分の専門性を問い直して、実践する方向を自前で創っていくしかしょうがないですね。基礎構造改革や支援費制度の流れを見て思うのは、きれいな言葉で惑わされてしまうと中身が見えなくなってしまうということです。むしろ、きれいな言葉は使わずに「ノーマライゼーションはできていない」というところから考えなければいけないと思います。そういう意味では言葉をもっと誠実に使わないといけません。「自己決定」と言ってみても、なかなか自分では選べないというのが実情です。「地域生活」と言っただけで、十分な資源も整っていないしそのための新たなサポートもほとんど考えられていない状況です。そこで、私たちはそのような現実をふまえた上で、きれいごとや理念でごまかさずに、できることからひとつずつ誠実に実践していくという姿勢こそが大切なのだと思います。

福祉は特に熱き思いを持った人が地域で創ってきたようなところがありますから、もう一度原点に帰って「地域に福祉を創る」というような活動がどれだけできるかということ職員自らが問い直すことが必要だと思います。でもス

ウェーデンの真似はできないと思います。全然違いますから。

松上 そうですね。国のあり方やシステムが違いますから。本当はもっと国民的なレベルで私たちの国をどうしていくのかという今後のビジョンを明確にする必要がありますね。「自分たちはたくさんお金を払うけれども、それに見合った支援が欲しい」というのか、「お金は払わないけれども、自分のことは自分でしていく」のか、その辺の論議をしていかなければならないと思います。

松端 なぜこのままではだめで、社会保障の負担を抑えていかなければならないのかということがわからないわけです。それにどういうことを期待されているのかがわからないわけです。もし負担だけの話をしていたら誰もスウェーデンのように消費税を25%も支払わないわけです。負担には必ず見返りがあるわけです。スウェーデンは、子供の教育費は一切かからないし、老後の心配もする必要はないし、知的な障害があっても豊かな地域生活ができるというように、そのような生活を税金に託しているわけです。日本でも政治に対する信頼感がもっとできて、自分たちで納めた税金は回り回って自分たちの生活に返ってくるという実感があれば、仮に消費税率が20%になったとしても、先日の見通しではこのままでいくと10年後には消費税率を30%にしないとたないという話でしたが、もし30%になったとしても、お金の流れが透明になり、確実に自分たちの生活に返ってくるという見通しがあれば、異論は出にくいと思います。異論が出るのは、消費税が上がったとしてその上がった分がどこに消えてしまうのかがわからないような場合です。極端な話ですが、国の借金の返済にすべて充ててしまうと、生活への見返りが無いまま負担だけするという事になってしまいます。もっと国のあり方も議論できないといけないと思います。

そのためには、正直に現状を語らないといけないと思います。きれいな言葉をあまり使わずに、日本はノーマライゼーションができていないし、政策的にも目指すつもりはなさそうであるというところから始めないといけないと思います。ノーマライゼーションとか自己決定とか

いう言葉を不用意に使ってしまうと現状が見えづらくなってしまいます。

松上 実際グランドデザイン案を読んでみても、私たちがやっている実践というか、現場とのからみが全然見えてこないのです。国の問題だけが出てきてしまって、現場レベルではかなり混乱しているというか苦悩しているところがあるような気がしています。

松端 支援費制度導入の際には、ケアマネジメントは一旦棚上げしておいて、今になってまたケアマネジメントと言いついていますが、本来ケアマネジメントは必要なものですが、本来グランドデザイン案の文脈の中での語られ方というのは、ケアマネジメントには給付管理しか期待していないというようなニュアンスですね。

松上 ではグランドデザイン案については、また改めてお話いただくとして、本日はどうもありがとうございました。

松端 ありがとうございました。



●訂正とお詫び

前号の内容に誤りがありましたので、訂正してお詫び申し上げます。

	誤	正
4ページ右段1行目	学生数2～3万人程度の	学生数2万人程度の
6ページ左段37行目	5年制の特別高校	4年制の特別高校
6ページ左段46行目	スウェーデンでは行政の職権が強くて、	スウェーデンでは30年ほど前まで行政の職権が強くて、
6ページ右段3行目	強引に里親の所に連れて行ったりとか施設への入所の措置をとっています。	強引に里親の所に連れて行かれたり施設への入所の措置をとっていました。
7ページ左段1行目	職員の配置も2名程度のところから20名ぐらいのところまで様々です。	職員の配置も2名程度のところから30名ぐらいのところまで様々です。
7ページ左段30行目	共益費が12,000クロネ(約180,000円)、	共益費が1,200クロネ(約18,000円)、

第1回北摂杉の子会講演会

今回、日本におけるホスピスの創設者であり、当法人設立当初より、ご支援を頂いています柏木哲夫先生を講師にお迎えして、第1回北摂杉の子会講演会を開催することとなりました。講演会を通して、多くの市民の方々と「命の大切さ」「人として生きることの意味」「共に生きること」について共に考え、私達の願いである「共に生きる社会」の実現に少しでも貢献できることを願っています。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日 時 平成17年7月24日(日)

午後2時～午後4時

(午後1時30分開場)

会 場 高槻市立現代劇場大ホール

演 題 「命の輝き」

講 師 柏木哲夫先生

(講師経歴)

1965年 大阪大学医学部卒業、ワシントン大学に留学。

1972年 帰国、淀川キリスト教病院に精神神経科を開設。

1984年 ホスピス開設、副院長、ホスピス長。

1993年 大阪大学人間科学部教授就任。

1994年 日米医学功労賞受賞。

1998年 朝日社会福祉賞受賞。

2004年 保健文化賞受賞。

現在、淀川キリスト教病院名誉ホスピス長、金城学院大学学長、

大阪大学名誉教授、日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団理事長

(著書)「生と死を支える」「死にゆく人々のケア」「死を学ぶ」他多数。

参加費 1,000円

主 催 社会福祉法人北摂杉の子会

講演会への参加をご希望の方は、「講演会参加希望」とお書きの上、参加者氏名、住所、電話番号をご記入して頂き、FAXまたはEメールにてお申し込み下さい。

FAX番号：072-699-0130

Eメールアドレス：haginomori@nifty.com

- 法人へのご寄付に感謝します(2004年12月22日～2005年3月末日)
松尾俊綱 藤岡宏・紀子 不二園芸 山下 早川秀春 株式会社タイトランスポート 河端良一
田泌尿器科クリニック理事長田珠相 結川勉
- 後援会ご入会と会費納入に感謝します(2004年11月22日～2005年3月23日)
山内千鶴子 木村恵美子 長嶺真佐子 安部文博 安部昌巳 安部勢津子 安部美和 栗飯原みき子 赤尾浩子
佐々木久美子(共働舎花の会) 伊藤茂 加茂明男 清水悦子 行成章子 篠原敦子 向井満子 安原二三子
山田久美子 中野芳栄 井上美代子 平尾欣子 岡本敦子 前川達雄 小野田テル子 山口文子 緩詰政子 山口賢次
柏原智恵子 佐々木サツキ 城島英子 酒井喜代美 加藤孝子 柏原ひさゑ 村上由紀恵 近藤英代 服部淑子
大谷千由子 紙和子 井上陽子 稲井由沙子 広井泉 広井良平 坂口誠 新保益代 新保正秋 柏木美智恵
伊福久子 三田智子 葉杖雪子 浜田由美子 岩槻訓子 志賀亞之 藤崎靖之 山根民子 圓佛誠一郎 門口映子
矢吹和代 村山宣明 本田宏美 本田英世 本田賀子 本田聡 林秀郎 本田利秋 本田千秋 本田成美 香川直子
矢橋雅文 矢橋美智子 長井美代子 西村伊一郎 宗元信夫 藤下樹 渡辺信枝 浜地憲章 山下隆司 加島孝人
中川まどか 角谷慶子 中西哲 新井清也 佐々木薫 新谷敦 中西弘 益田忍 山口博 山口秀子
中川明美(やまびこ園) 久保茂 川中靖子 千原須美子 結川勉 河野みゆき 佐竹公也 有田和弘 登間佐孝男
岩本由美子 藤原順子 高井カツミ 降幡恵
- 後援会へのご寄付に感謝します(2004年11月22日～2005年3月23日)
栗飯原みき子 カトリック高槻協会 沢田隆生 小川敏夫 柏原紀男 橋川靖子 茨木春日丘教会 長良恭行
尾崎満子 矢橋博 矢橋公 角谷慶子 中村千秋 玉井 佐竹公也
- 家族会へのご寄付に感謝します(2004年12月1日～2005年3月末日)
ほかほか弁当園田店 サンクス富田店 小川敏夫 法橋かね子
- 物品のご提供に感謝します(2004年12月1日～2005年末日)
不二園芸 大庭由美子 津茂谷 山崎弘美 下川隆子 鶴谷久子 梶原明子 小林 宮田 水野厚子 三井雪男 荒木
- ボランティアに感謝します(2004年12月1日～2005年末日)
ニューフジ ヘアーサロン大ちゃん ほかほか弁当園田店 児玉純子 松木咏子 岡本敦子 森田幸子
(敬称略 順不同)

寄付と後援会入会のお願い

社会福祉法人「北摂杉の子会」後援会の趣旨に賛同され、ご支援して下さる方々の寄付及び後援会への入会をお願い申し上げます。寄付金と後援会費は法人を支援するための資金とさせていただきます。

記

1. 寄 付 金		円
2. 個 人 会 員	年間一口	2,000円
3. 団 体 会 員	年間一口	10,000円

お振込みは下記口座まで、もしくは、同封の振込用紙をご利用下さい。皆様のご支援とご協力をよろしくお願ひ致します。



郵便振込口座 北摂杉の子会 00920-8-90859



社会福祉法人北摂杉の子会

- 知的障害者生活施設 萩の杜
- ショートステイセンター ぶれす
〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1
TEL (072) 699-0099 FAX (072) 699-0130
[E-Mail] haginomori@nifty.com
[URL] http://homepage3.nifty.com/suginokokai/
- 知的障害者通所授産施設 ジョブサイトひむろ
〒569-1141 高槻市氷室町1丁目14-27
TEL & FAX (072) 697-2234
- 生活支援センター あんだんて
〒569-1141 高槻市氷室町1丁目14-27
TEL (072) 697-2233 FAX (072) 697-2234
[E-Mail] andante-himuro@nifty.com
- 大阪府自閉症・発達障害支援センター アクトおおさか
〒569-0077 高槻市野見町3-14第2高谷ビル2F

- TEL (072) 662-0055 FAX (072) 662-0056
[E-Mail] act-osaka@nifty.com
[URL] http://homepage3.nifty.com/actosaka/
- 自閉症療育センター will
〒569-0077 高槻市野見町3-14第2高谷ビル2F
TEL (072) 662-0100 FAX (072) 662-0056
[E-Mail] will@nifty.com
- 大阪自閉症支援センター
- 児童デイサービスセンター an
〒558-0004 大阪市住吉区長居東2-2-4加島ビル3階
TEL (06) 6607-2249 FAX (06) 6696-8613
[E-Mail] oasc2002@m08.alpha-net.ne.jp
[URL] http://www.aa.alpha-net.ne.jp/oasc2002/
- グループホーム とんだ
〒569-0814 高槻市富田町5-13-14
- グループホーム みやた
〒569-1142 高槻市宮田町3-4-1

発行人 社会福祉法人北摂杉の子会 理事長 今村一二三
発行日 2005年4月10日

発行所 萩の杜 住所 大阪府高槻市大字萩谷14番地1
定価 100円

